

# 環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会  
編集者：代表幹事 高橋 賢一  
連絡先：市民活動支援センター  
尾張旭市渋川町三丁目5番地7  
(渋川福祉センター内)  
TEL 0561-51-2878



ワシントンハイッツ  
GHQが東京に刻んだ戦後  
こんなところで野球ができたらいいなと憧れるばかりの、戦後の少年もいた。そんな中学生の一人が、後に歌手としてまた俳優として活躍する、あの輝きをもつ青井輝彦氏である。彼は代々木中学に通う学生だった。

ある日一人の日系アメリカ人から声をかけられた。彼はワシントンハイッツの人であった。子どもたちに夢を伝えることだった。青井氏はこうして少年野球団に入団した。その名が「ジャビーズ」少年野球団とついた。声をかけた日系人の名は、ジャニー・ヒロム・ミタガワ。芸能プロダクション「ジャニーズ事務所」の創業家である。代表格は郷ひろみ、SMAPのリーダーを輩出している。

さてこの続きは次回に掲載します。

## 今年の大河ドラマ「べらぼう」萬重栄

華乃夢漸と主人公は萬屋重三郎。18世紀後半の江戸で本屋商売を営んだ人物です。彼が妻の遊郭の街、吉原で商売をはじめ、やがて日本橋に本屋を展開していったところにある。

当時の日本橋には、いづれも伝統ある老舗の本屋ばかりが集結していた。新参者が進出することはまず、卓越した商人であったことを強調したいと思えます。又強みとして挙げたいのは、ペディア戦略の巧みさ。頭角を現したきっかけは、吉原遊郭にいた遊女たちの魅力を紹介した「吉原細見」というガイドブックの出版でした。すなわち、社会の中心にある文化や人の魅力を発信していくことにあはれた才能を持っていた。

年々が備わるだけでなく、山東京伝や喜多川歌麿、東洲斎写楽といった時代を代表するさまざまなクリエイターたちと協同し、江戸の文化を発展させていた。



また萬重が台頭してきた当時は田沼意次が幕府の実権を握っており、経済が活性化していた。当時の武士は教育水準が高く、文化にも通じた特権階級でした。彼らが江戸で遊ぶ中でその教養やセンスを町人たちも取り入れていき、それが多様な文化の成熟に結実しました。萬重の成業を成功には、そのような背景があったことも大きいと思います。

萬重の生涯を見ると、彼が本当に愛しかつ周囲の人を楽しませる形で仕事をしていくことは伝わってきています。その証拠に、彼の人物を思わせる史料は残っていない。その姿勢は多くの現代人も、後世にできるかもしれません。

